

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営みを始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展しました。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

池田市教育委員会
教育長 村 田 陽

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成 22 年度国庫補助事業（総額 1,200,000 円、国庫 50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、池田市教育委員会教育部生涯学習推進課が実施し、中西正和が現地を担当した。
3. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。
4. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。
5. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I 歴史的環境	1
II 神田北遺跡	5
神田北遺跡第17次調査	6
神田北遺跡第18次調査	6
III 梓城寺遺跡	8
梓城寺遺跡第11次調査	9
梓城寺遺跡第12次調査	10
梓城寺遺跡第13次調査	10
IV 池田城跡発掘調査	12
池田城跡第64次調査	13
池田城跡第65次調査	14
池田城跡第66次調査	15
池田城跡第67次調査	16
V 宮の前遺跡発掘調査	17
宮の前遺跡第52次調査	18
宮の前遺跡第53次調査	19
宮の前遺跡第54次調査	20
宮の前遺跡第55次調査	20
VI 豊島南遺跡第9次調査	22
図版	
報告書抄録	

図 版

- | | | |
|-----|----------------|----------------|
| 図版1 | 1) 神田北遺跡第17次調査 | トレンチ全景（南東から） |
| | 2) 神田北遺跡第18次調査 | トレンチ全景（南東から） |
| 図版2 | 1) 梓城寺遺跡第11次調査 | 第1トレンチ全景（北西から） |
| | 2) 梓城寺遺跡第11次調査 | 第2トレンチ全景（北西から） |
| 図版3 | 1) 梓城寺遺跡第12次調査 | トレンチ全景（南東から） |
| | 2) 梓城寺遺跡第13次調査 | トレンチ全景（南東から） |
| 図版4 | 1) 池田城跡第64次調査 | 第1トレンチ全景（南東から） |
| | 2) 池田城跡第64次調査 | 第2トレンチ全景（北東から） |
| 図版5 | 1) 池田城跡第65次調査 | トレンチ全景（北西から） |

- 2) 池田城跡第 66 次調査 第 1 トレンチ全景 (南東から)
 図版 6 1) 池田城跡第 66 次調査 第 2 トレンチ全景 (南東から)
 2) 池田城跡第 66 次調査 第 3 トレンチ全景 (北から)
- 図版 7 1) 池田城跡第 67 次調査 トレンチ全景 (南西から)
 2) 宮の前遺跡第 52 次調査 トレンチ全景 (北東から)
- 図版 8 1) 宮の前遺跡第 53 次調査 トレンチ全景 (東から)
 2) 宮の前遺跡第 53 次調査 土坑 (北西から)
- 図版 9 1) 宮の前遺跡第 54 次調査 トレンチ全景 (南西から)
 2) 宮の前遺跡第 55 次調査 トレンチ全景 (南西から)
- 図版 10 1) 豊島南遺跡第 9 次調査 第 1 トレンチ全景 (北東から)
 2) 豊島南遺跡第 9 次調査 第 2 トレンチ全景 (東から)
- 図版 11 1) 榛城寺遺跡第 11 次調査出土遺物 表 2) 榛城寺遺跡第 11 次調査出土遺物 裏
 3) 榛城寺遺跡第 13 次調査出土遺物 表 4) 榛城寺遺跡第 13 次調査出土遺物 裏
 5) 池田城跡第 64 次調査出土遺物 表 6) 池田城跡第 64 次調査出土遺物 表
 7) 池田城跡第 67 次調査出土遺物 1
- 図版 12 1) 池田城跡第 67 次調査出土遺物 2 表 2) 池田城跡第 67 次調査出土遺物 2 裏
 3) 宮の前遺跡調査出土遺物 表 4) 宮の前遺跡調査出土遺物 裏
 5) 豊島南遺跡第 9 次調査出土遺物 表 6) 豊島南遺跡第 9 次調査出土遺物 裏

挿 図 目 次

I 歴史的環境	
第 1 図 宮の前遺跡石棒	1
第 2 図 遺跡分布図	2
第 3 図 豊島南遺跡方形周溝墓	3
第 4 図 姫三堂古墳	3
第 5 図 池田城跡掘立柱建物跡	4
II 神田北遺跡発掘調査	
第 6 図 調査地位置図	5
神田北遺跡第 17 次調査	
第 7 図 トレンチ位置図	6
第 8 図 トレンチ断面図	6
神田北遺跡第 18 次調査	
第 9 図 トレンチ位置図	7

第 10 図 トレンチ断面図	7
III 禅城寺遺跡発掘調査	
第 11 図 禅城寺遺跡第 2 次調査	8
第 12 図 調査地位置図	8
禅城寺遺跡第 11 次調査	
第 13 図 トレンチ位置図	9
第 14 図 トレンチ平・断面図	9
第 15 図 出土遺物実測図	9
禅城寺遺跡第 12 次調査	
第 16 図 トレンチ位置図	10
第 17 図 トレンチ断面図	10
禅城寺遺跡第 13 次調査	
第 18 図 トレンチ位置図	10
第 19 図 トレンチ平・断面図	11
第 20 図 出土遺物実測図	11
IV 池田城跡発掘調査	
第 21 図 調査地位置図	12
池田城跡第 64 次調査	
第 22 図 トレンチ位置図	13
第 23 図 トレンチ平・断面図	13
第 24 図 出土遺物実測図	14
池田城跡第 65 次調査	
第 25 図 トレンチ位置図	14
第 26 図 トレンチ断面図	14
池田城跡第 66 次調査	
第 27 図 トレンチ位置図	15
第 28 図 トレンチ平・断面図	15
池田城跡第 67 次調査	
第 29 図 トレンチ位置図	16
第 30 図 トレンチ断面図	16
第 31 図 出土遺物実測図	16
V 宮の前遺跡発掘調査	
第 32 図 調査地位置図	17
宮の前遺跡第 52 次調査	
第 33 図 出土遺物実測	18
第 34 図 トレンチ位置図	18

第 35 図 トレンチ平・断面図	18
宮の前遺跡遺跡第 53 次調査	
第 36 図 トレンチ位置図	19
第 37 図 トレンチ平・断面図	19
第 38 図 出土遺物実測図	20
宮の前遺跡遺跡第 54 次調査	
第 39 図 トレンチ位置図	20
第 40 図 トレンチ平・断面図	20
宮の前遺跡遺跡第 55 次調査	
第 41 図 トレンチ位置図	21
第 42 図 トレンチ断面図	21
VI 豊島南遺跡第 9 次調査	
第 43 図 豊島南遺跡焼失住居	22
第 44 図 調査地位置図	22
第 45 図 トレンチ位置図	23
第 46 図 出土遺物実測図	23
第 47 図 トレンチ平・断面図	23

I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50mの緩やかな五月丘陵が広がり、その南側には、宇保段丘が位置し、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

旧石器時代

旧石器が出土した遺跡は、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、神田北遺跡であるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大坂府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器、平成元・7年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。神田北遺跡では、平成9年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴う調査で国府型ナイフ形石器が出土している。

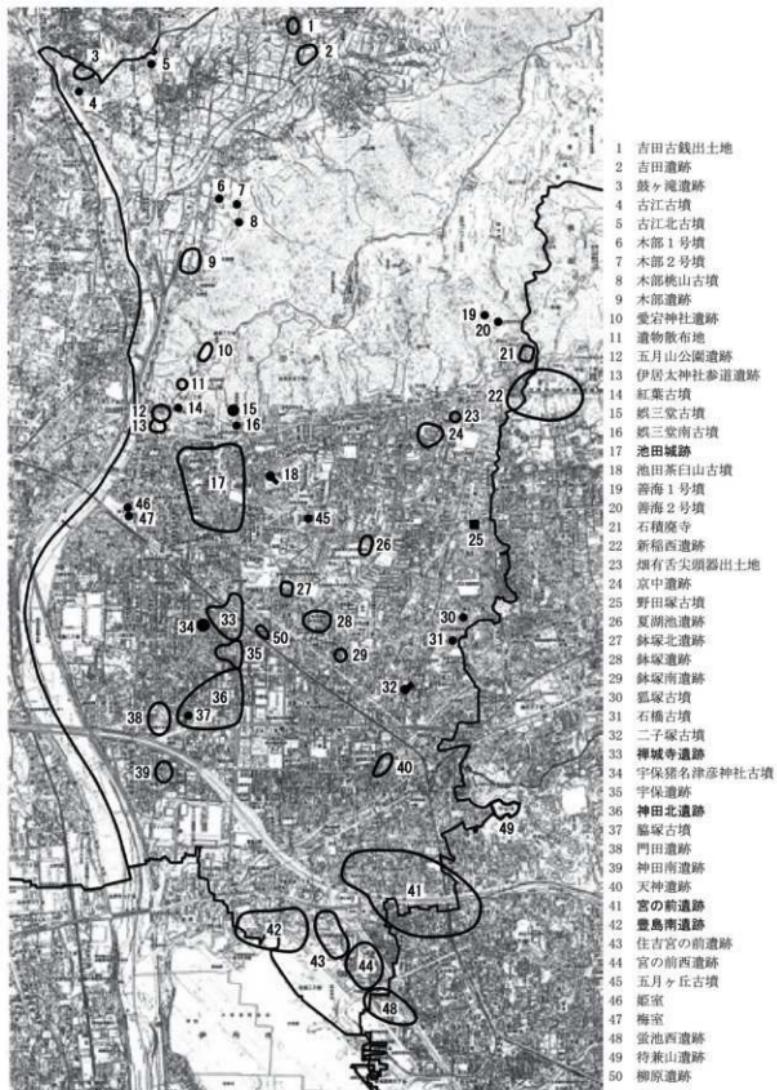
縄文時代

縄文時代に関する遺跡も少ない。市域北部での遺跡は、古江遺跡から石匙、木部遺跡では石鏃が出土している。市内中部の伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサスカイト製の石鏃、京中遺跡でサスカイト製の石鏃・石匕が採取され、近隣の畠ではサスカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサスカイト製の石鏃や晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匙、宮の前遺跡では石棒・石鏃が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土遺物は少なく、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。



第1図 宮の前遺跡石棒



第2図 遺跡分布図

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で、その際に弥生時代前期から後期の土器が出土し、平成15年度の調査においても前期から中期の土器が出土している。

弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43・44年に中国縦貫自動車道建設に伴い、大規模な発掘調査が行われ、方形周溝墓、堅穴住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベッド状遺構を伴う堅穴住居跡が検出されている。また、神田北遺跡においては、堅穴住居跡、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

古墳時代

市内に残る古墳時代前期の古墳は、池田茶臼山古墳と娛三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、堅穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娛三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文帶神獸鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に堅穴式石室と粘土櫛が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

古墳時代後期では古江古墳、善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。古江古墳は平成17年に電波塔工事によって破壊され、その際の事後調査に



第3図 豊島南遺跡方形周溝墓



第4図 娯三堂古墳

よって、須恵器・鉄刀が出土した。

上記の小古墳が築造された一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、鉢塚古墳と二子塚古墳は異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡として、豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居跡、後期の竪穴住居跡、住吉宮の前遺跡では前期の土器棺墓、竪穴住居跡、宮の前遺跡では中期の竪穴住居跡、木棺墓、土壙墓、埴輪円筒棺、禪城寺遺跡では飛鳥時代の竪穴住居跡が検出されている。北部の古江遺跡、木部遺跡で須恵器や土師器が出土しているが、遺構の検出は未だいたっていない。

奈良時代から中世

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡、溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡、溝が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。

中世に入ると神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、土師氏によって開発が推進された呉庭荘と関係するものと考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城跡は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を確認している。池田城の主郭以外でも調査が行われ、平成19年度の調査では15世紀終わりの堀を検出している。



第5図 池田城跡掘立柱建物跡

参考文献

- 『原始・古代の池田』 池田市立池田中学校地歴部 1985年
- 『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年
- 『宮之前遺跡発掘調査概報』 宮之前遺跡調査会 1970年
- 『禪城寺・宇保・神田北遺跡』 大阪府教育委員会 2002年
- 『住吉宮の前遺跡』 （財）大阪府文化財調査研究センター 2001年

II 神田北遺跡

はじめに

神田北遺跡は池田市の南側、神田1丁目一帯にひろがる旧石器時代から中世にいたる複合遺跡である。

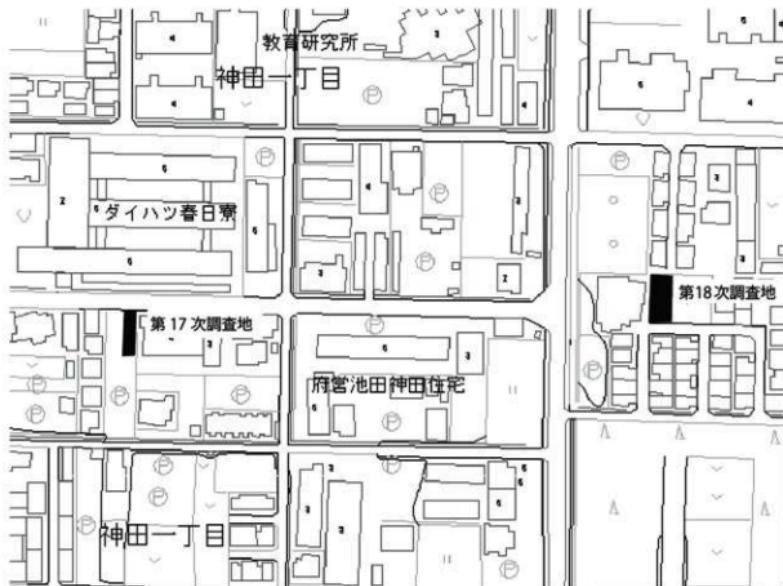
昭和50年に石器の発見により周知される。同年、発掘調査が行われ、縄文時代の石器、弥生時代後期の土器や古墳時代の須恵器等が出土している。

その後のマンション・住宅建築等に伴う事前の発掘調査により、弥生時代後期の竪穴住居跡、奈良時代の掘立柱建物跡、溝、中世の掘立柱建物跡等が見つかっており、徐々にではあるが遺跡の概要が判明しつつある。また、平成11年の大阪府教育委員会による調査では、国府型ナイフ形石器が見つかっており、旧石器時代まで溯る遺跡であることが判明している。

また、周辺の遺跡として、神田北遺跡より北に位置する禪城寺遺跡では、飛鳥時代の竪穴住居跡が見つかっている。

参考文献

『禪城寺・宇保・神田北遺跡』大阪府教育委員会 2002年



第6図 調査地位置図

神田北遺跡第17次調査

調査の概要

調査は神田1-1251-5において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地の北側にトレーニングを設定した。調査面積は2m²である。

層序は、

第1層 表土・盛土

第2層 灰色粘土

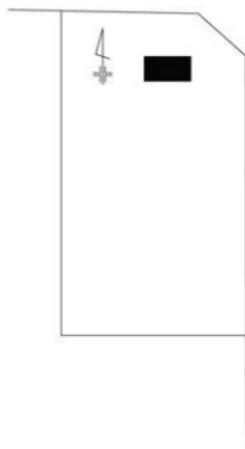
第3層 オリーブ黒色粘土

第4層 黄褐色粘土

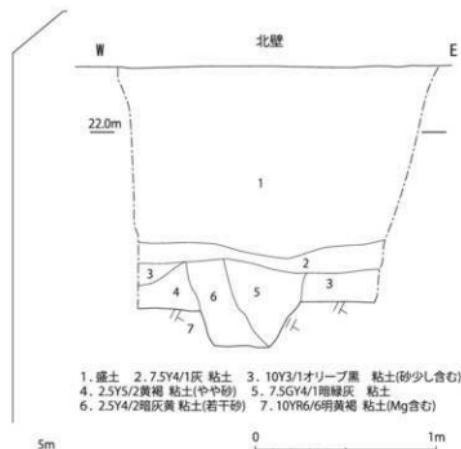
第5層 明黄褐色粘土の地山である。

調査の結果、第3層上から南北に走る溝を検出した。落ち込みは幅50cm、深さ50cmまで測るが、調査区外に伸びるため、規模は不明である。

出土遺物はなかった。



第7図 トレーニング位置図



第8図 トレーニング断面図

神田北遺跡第18次調査

調査の概要

調査は神田1-1251-5において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地の北側にトレーニングを設定した。調査面積は2m²である。

層序は、

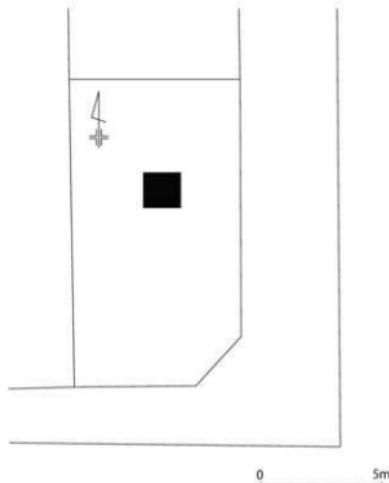
第1層 表土・盛土

第2層 耕土・床土

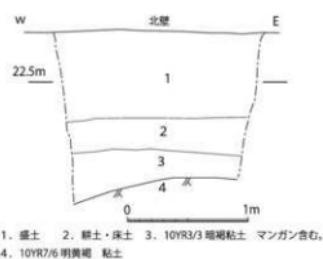
第3層 暗褐色粘土 マンガン含む。

第4層 明黄褐色粘土の地山である。

調査の結果、遺物、遺構は確認できなかった。



第9図 トレンチ位置図



第10図 トレンチ断面図

III 梓城寺遺跡発掘調査

はじめに

梓城寺遺跡が位置する宇保町一帯は、11世紀頃、土師氏によって開発されたと考えられる呉庭荘と比定される。呉庭荘は平安時代後期の鳥羽院政期には皇室領となり、鎌倉時代に入ると皇室領からは離れ、農業信仰の牛頭天王を祭神とする呉庭総社を創設し、社領莊園として直接支配が図られた。善城寺も呉庭総社とともに氏寺として創建された。梓城寺は坂上氏系譜にみられる善城寺と考えられるが、詳しいことはわかっていない。



第11図 梓城寺遺跡第2次調査

梓城寺遺跡の発見は、昭和62年マンション工事中に中世の瓦が発見されたことからはじまるが、その後、調査の件数が少なく不明な点が多かった。しかし、平成9年、遺跡の東側に位置する府道拡幅工事に伴う大阪府教育委員会の試掘調査の結果、中世遺物が発見されたことにより、遺跡範囲の拡大が行われた。また、平成10年に実施した池田市教育委員会による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査の結果、飛鳥時代の竪穴住居跡4基、奈良時代の掘立柱建物跡1基、出土遺物は弥生時代後期の土器が検出された。こうした成果から、梓城寺遺跡は宇保町・城南2丁目一帯にひろがる弥生時代後期から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。



第12図 調査地位置図

禪城寺遺跡第11次発掘調査

調査の概要

発掘調査は池田市宇保町236-3において、共同住宅建築に先立ち実施した。調査面積は4m²である。

基本層序は、

第1層 盛土

第2層 耕土

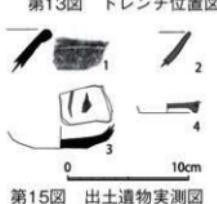
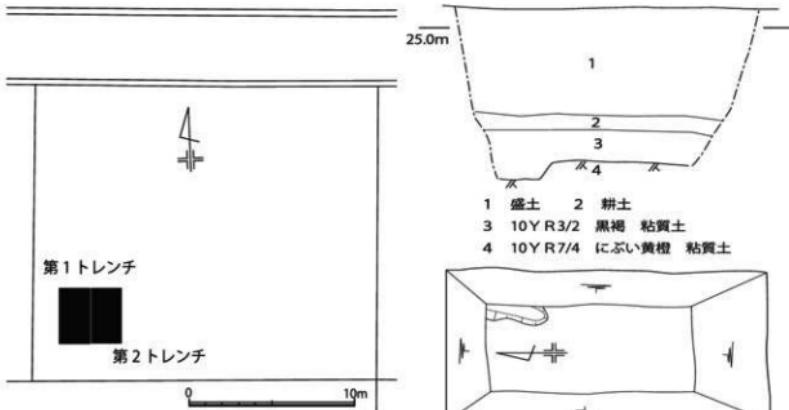
第3層 黒褐色粘質土

第4層 にぶい黄橙色粘質土の地山である。

調査の結果、第2トレンチから柱穴1基を検出した。

第3層から須恵器・土師器・瓦器等が出土した。小片が多く実測可能なものは次のとおりである。

1は第1トレンチより出土した須恵器で、口縁部と考えられ、外面に2重に交差する波状紋が残る。2から4は第2トレンチより出土した遺物で、2・4は瓦器挽である。4は青磁の皿で、疊付は露胎である。



第15図 出土遺物実測図

禪城寺遺跡第12次試掘調査

調査の概要

調査は池田市八王寺1-148-8において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査面積は6m²である。

調査地は禪城寺遺跡の範囲の東端に位置する。

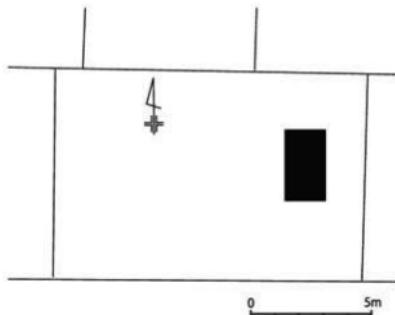
基本層序は、

第1層 盛土

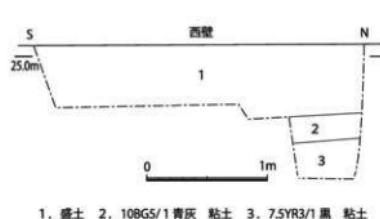
第2層 青灰色粘土

第3層 黒色粘土であるが、地山の確認までは至らなかった。

調査の結果、検出遺構・出土遺物はなかった。



第16図 トレンチ位置図



第17図 トレンチ断面図

禪城寺遺跡第13次試掘調査

調査の概要

調査は池田市宇保町3-22において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査面積は20m²である。

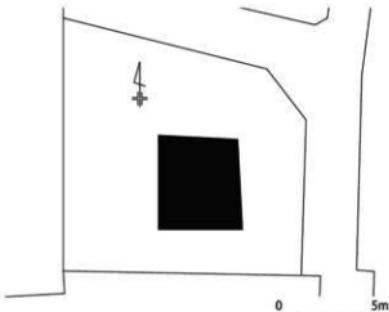
調査地は禪城寺遺跡がひろがる台地上の北西端部に位置し、飛鳥時代の竪穴住居等が見つかった第2次調査地の南に隣接する場所でもある。

基本層序は

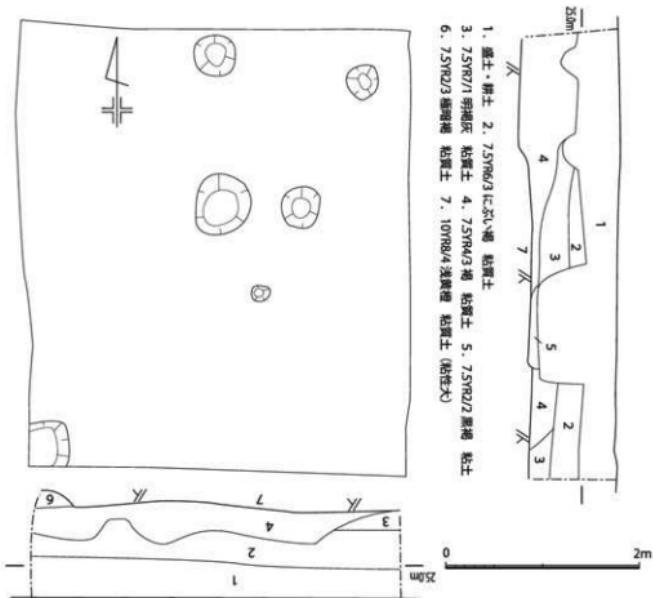
第1層 盛土、

第2層 褐色粘質土

第3層 浅黄橙色粘土の地山である。



第18図 トレンチ位置図

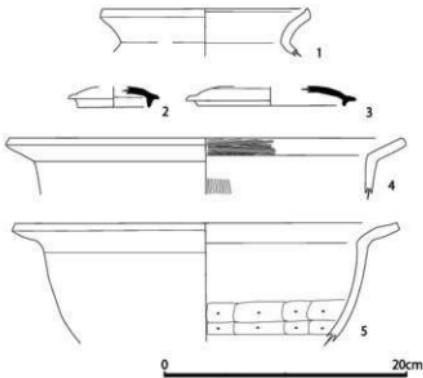


第19図 トレンチ平・断面図

検出遺構は地山上より柱跡6基である。掘立柱建物跡の復元はできず。時期も不明である。

第2層よりコンテナ1箱分の出土遺物があった。

1は弥生土器（後期）の口縁部で、体部にタキの痕が残る。2・3は須恵器の蓋と考える。4・5は土師器の鍋で、4は内面にハケ目が残り、5は内面にヘラミガキあとがみられる。



第20図 出土遺物実測図

IV 池田城跡発掘調査

はじめに

池田城は、池田市城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。

池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、莊園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・經濟支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43・44年に主郭の一部が発掘調査され、礎石を伴う建物跡、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水様の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年から4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる埠列建物等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在すること



第21図 調査地位置図

や平成19年度の調査で15世紀終わりの堀が検出されており、少しずつであるが城の全容が解明している。

また、池田城以前の時代についても、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、平成3年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡を検出している。

池田城跡第64次調査

調査の概要

池田市上池田1-396-2において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。

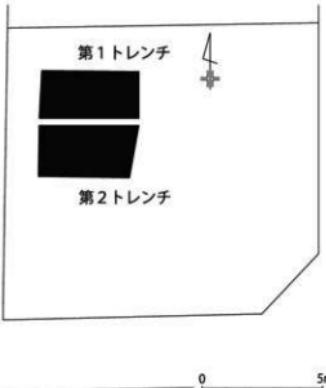
調査地の北西に第1トレンチ、第2トレンチを設定した。調査面積は16m²である。

層序は、

第1層 盛土

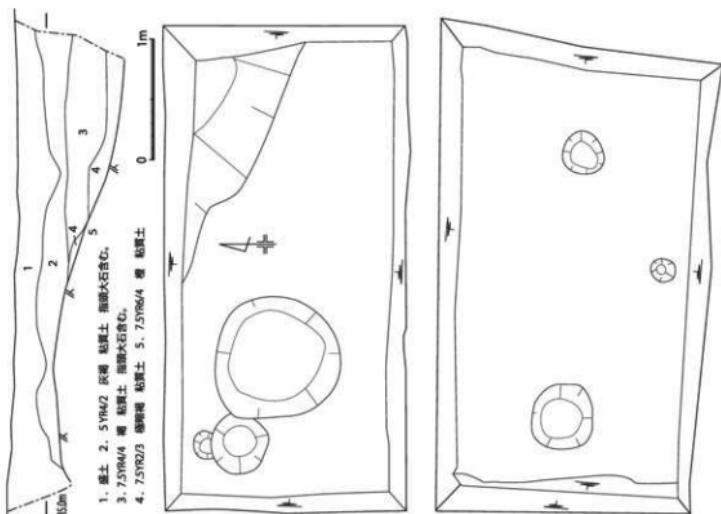
第2層 灰褐色粘質土

第3層 橙色粘質土の地山である。



第22図 トレンチ位置図

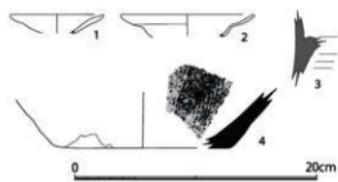
調査の結果、第1トレンチからは落ち込み、土



第23図 トレンチ平・断面図

坑、柱穴。第2トレンチからは柱穴を検出した。柱穴について、掘立柱建物跡の復元はできなかった。落ち込みは、北東に広がり規模等は不明である。

第3層より土師器皿、瓦質羽釜等が出土した。1・2は土師器皿で、作りは雑である。3は瓦質の羽釜、4は備前産の擂鉢である。



第24図 出土遺物実測図

池田城跡第65次調査

調査の概要

池田市上池田1638-4において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査面積は6m²である。

層序は、

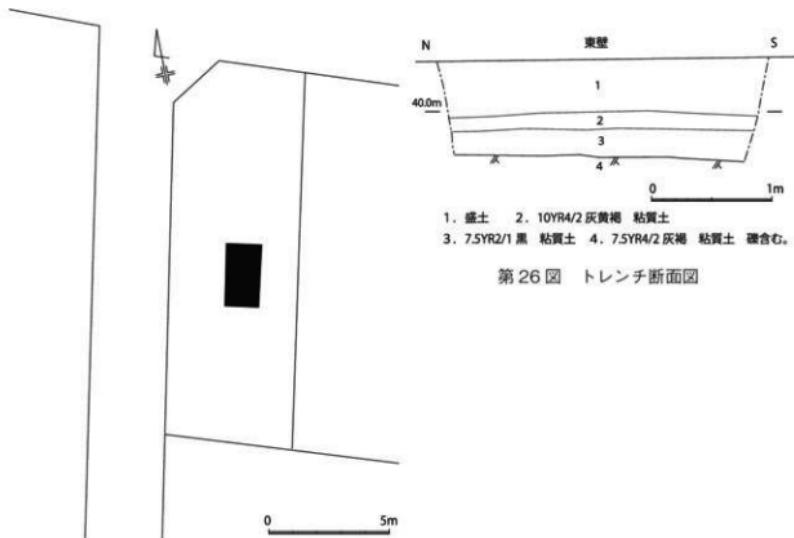
第1層 盛土

第2層 灰黄褐色粘質土

第3層 黒色粘質土

第4層 灰褐色粘質土（疊含む）の地山である。

今回の調査では、遺構・出土遺物は確認できなかった。



第26図 トレンチ断面図

第25図 トレンチ位置図

池田城跡第66次調査

調査の概要

池田市建石町2021-2において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。これまでの調査の結果、調査地は池田城の外堀の開口部に位置している。調査地北に第1トレンチ、中央に第2トレンチ、南に第3トレンチを設定した。調査面積は15m²である。

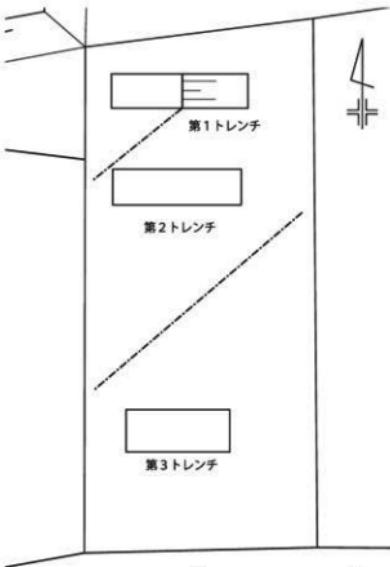
層序は、

第1層 盛土

第2層 赤黒色砂質土

第3層 明赤灰色粘土の地山である。

調査の結果、第1トレンチは、東に落ち込む溝を検出する。第2トレンチは、地山が確認できなかったため、溝の上に位置していると考えられる。第3トレンチは溝を検出できなかった。そのため、溝は堀底の排水の溝と考えられ、南に行くにつれて西に曲がって

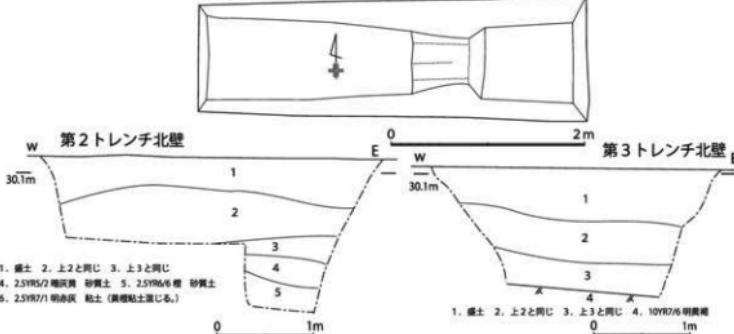


第27図 トレンチ位置図

第1トレンチ

30.1m
1. 盛土 2. 10YR5/3に近い黄褐色 砂質土 3. 10YR2/2黒褐色 粘土質土
4. 2.5YR5/2褐色 黏質土 5. 2.5YR6/6褐色 砂質土
6. 2.5YR2/1赤褐色 砂質土 7. 10YR4/4褐色 粘質土
8. 10YR5/1青褐色 粘土質土(マンガン含む) 9. 10YR3/1明褐色 粘土
10. 2.5YR7/1明赤褐色 粘土(黄褐色土混じる。)

1. 盛土 2. 10YR5/3に近い黄褐色 砂質土 3. 10YR2/2黒褐色 粘土質土
4. 2.5YR5/2褐色 黏質土 5. 2.5YR6/6褐色 砂質土
6. 2.5YR2/1赤褐色 砂質土 7. 10YR4/4褐色 粘質土
8. 10YR5/1青褐色 粘土質土(マンガン含む) 9. 10YR3/1明褐色 粘土
10. 2.5YR7/1明赤褐色 粘土(黄褐色土混じる。)



第28図 トレンチ平・断面図

いると考えられる。

出土遺物は確認できなかった。

池田城跡第67次調査

調査の概要

池田市城山町2563において、建売住宅建築に先立ち調査を実施した。

調査地は池田城が位置する台地を下った平地部に位置し、約100m南に位置する第29次調査では、焼土層を確認している。調査面積は2 m²である。

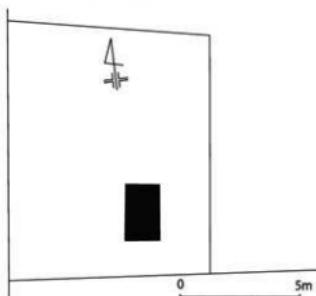
層序は、

第1層 盛土

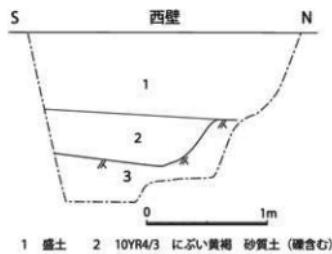
第2層 橙色粘質土の地山である。

調査の結果、地山上から南へ拡がる落ち込みを確認するが、規模等は不明である。

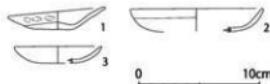
落ち込みより土師器皿が出土した。土師器皿は小型で作りは雑である。



第29図 トレンチ位置図



第30図 トレンチ断面図



第31図 出土遺物実測図

V 宮の前遺跡発掘調査

はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地する。

宮の前遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されており、遺跡の存在が知られていたが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43・44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居跡、古墳等が検出され、特に、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が住居とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目されるようになった。他にも、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、昭和61年度の大坂府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡が旧石器時代までさかのばることが判明し、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。



第32図 調査地位置図

周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時代前期の土器棺墓、竪穴住居跡が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に待兼山遺跡、須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、古墳時代前期の掘立柱建物跡が検出された螢池東遺跡、翼状剥片が出土した螢池西遺跡がある。

参考文献

- 『宮之前遺跡発掘調査概報』 宮之前遺跡調査会 1970年
- 『螢池北遺跡（宮の前遺跡）』 豊中市教育委員会 1995年
- 『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年
- 『住吉宮の前遺跡』 （財）大阪府文化財調査研究センター 2001年

宮の前遺跡第52次調査

調査の概要

池田市石橋4-309-4において個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地の西側にトレンチを設定した。調査面積は4m²である。

層序は、

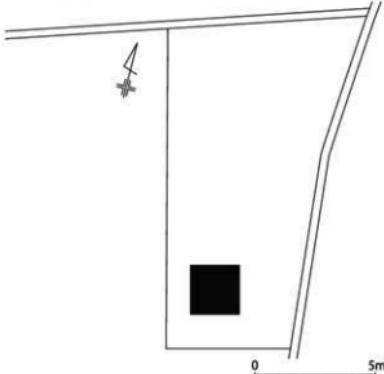
第1層 褐色粘質土

第2層 褐灰色粘質土

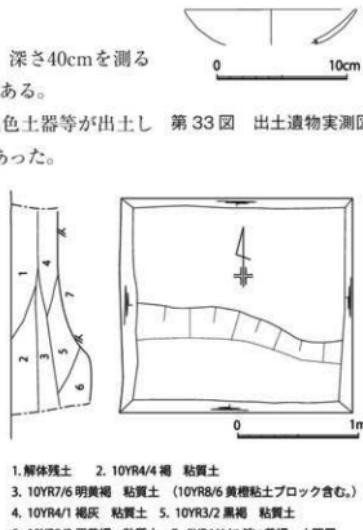
第3層 にぶい褐色粘質土の地山である。

調査の結果、南へ向かう落ち込みを検出した。深さ40cmを測るが、調査区より南側に広がるため、規模は不明である。

第2層及び落ち込みより、須恵器、土師器、黒色土器等が出土し 第33図 出土遺物実測図たが、実測できるものは第33図の黒色土器のみであった。



第34図 トレンチ位置図



第35図 トレンチ平・断面図

宮の前遺跡第53次調査

調査の概要

石橋4-129-45において個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地の中央にトレンチを設定した。調査面積は25m²である。

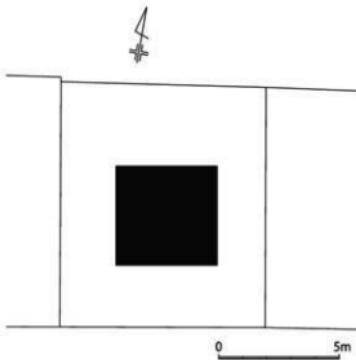
層序は、

第1層 盛土

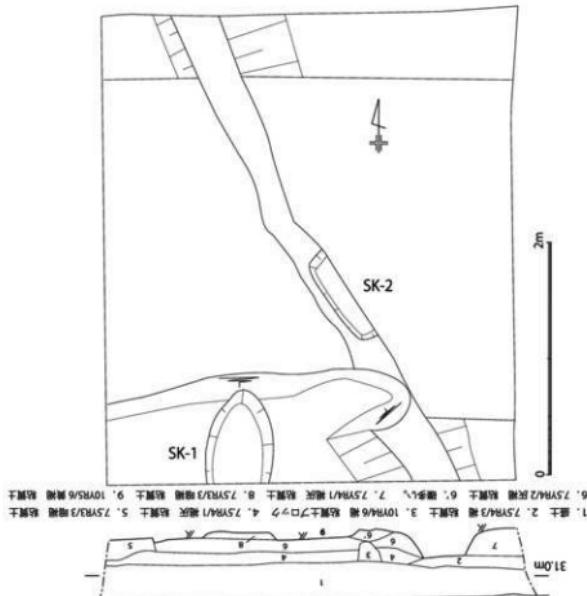
第2層 褐灰色粘質土

第3層 黄褐色粘質土の地山である。

調査の結果、中央の地山を畦状に削り残し、北東と南西に広がる区画跡、及び、地山上から土坑を検出した。区画跡は、本調査区外に広がっているため、規模・用途等不明である。また、土坑は南（SK-1）と中央（SK-2）にあり、区画跡によって殆どが削られている状態である。SK-1からは第38図の弥生土器と考え



第36図 トレンチ位置図



第37図 トレンチ平・断面図

れる鍋が出土した。SK-2は長方形をしているため、土壙墓の可能性もある。

宮の前遺跡第54次調査

調査の概要

石橋4-87-2他において実施した福祉施設建築に伴う試掘調査である。調査地の南にトレンチを設定した。調査面積は6m²である。

層序は、

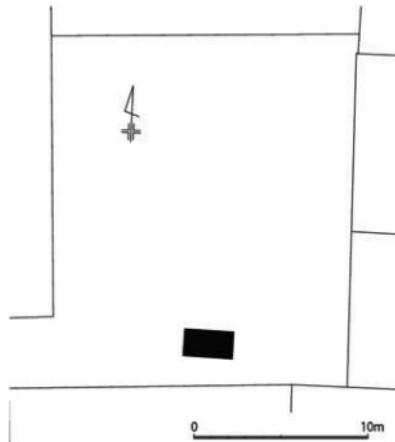
第1層 表土・盛土

第2層 にぶい褐色粘質土

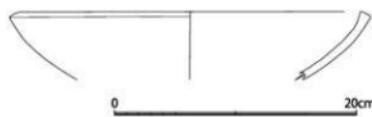
第3層 明褐色粘質土の地山である。

調査の結果、地山上より柱穴を検出したが、掘立柱建物跡の復元はできなかった。また、柱穴からの出土遺物がないため、柱穴の年代も不明である。

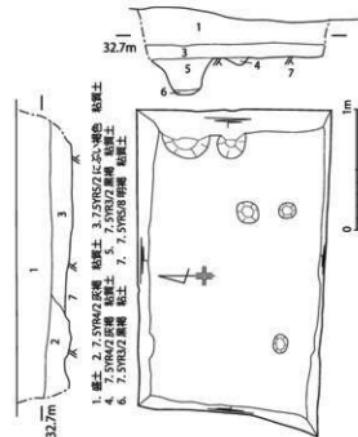
第2層より土師器、須恵器・瓦器椀等が出土したが、小片のため、実測できるものはなかつた。



第39図 トレンチ位置図



第38図 出土遺物実測図



第40図 トレンチ平・断面図

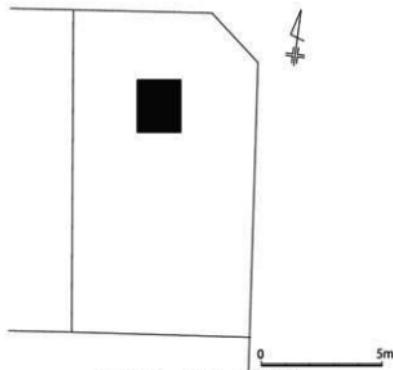
宮の前遺跡第55次調査

調査の概要

石橋4-154-4において個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地の北にトレンチを設定した。調査面積は4m²である。

層序は、
第1層 盛土
第2層 暗緑灰色粘土
第3層 にぶい橙色粘土の地山である。

調査の結果、検出遺構、出土遺物はなかった。地山上に暗緑灰粘土があるため、調査地周辺は湿地であったと考えられる。



第41図 テレンチ位置図



第42図 テレンチ断面図

VI 豊島南遺跡第9次調査

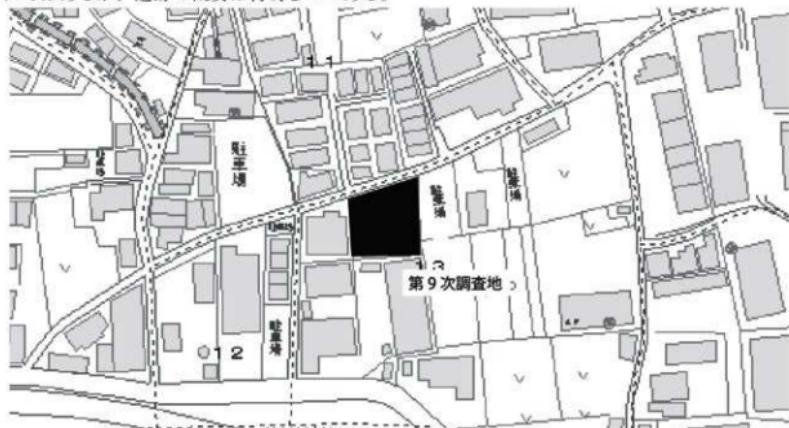
はじめに

豊島南遺跡は、池田市の南側、豊島南2丁目一帯にひろがる縄文時代から中世にいたる複合遺跡である。

豊島南遺跡は、昭和55・56年の池田市教育委員会による分布調査の結果発見され、その後、昭和60年の大阪府教育委員会の調査では弥生時代後期の溝や中世の溝等が検出されている。

昭和62年からの阪神高速道路池田延伸線工事に伴う発掘調査では、縄文時代から晩

期の土器片、弥生時代中期の方形周溝墓、庄内期の竪穴住居、布留期の焼失住居、古墳時代中期の方墳、古墳時代後期の竪穴住居・溝、奈良時代の掘立柱建物跡、中世の溝等が確認され、徐々にではあるが、遺跡の概要は判明しつつある。



第44図 調査地位置図

調査の概要

豊島南1-347-2において、福祉施設建設に先立ち調査を実施した。調査中央に第1トレーニチ、南側に第2トレーニチを設定した。調査面積は20m²である。

層序は、

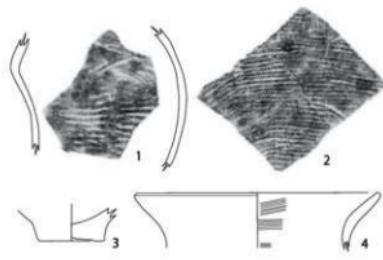
第1層 盛土

第2層 黒褐色土砂質土（砂礫多く含む。）

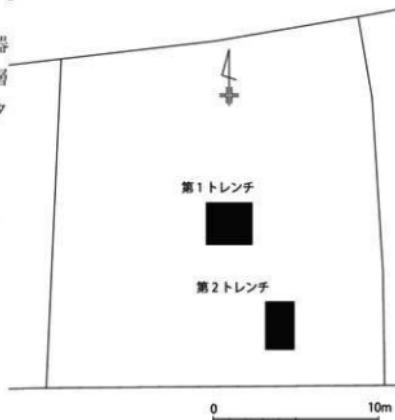
第3層 褐色粘質土の地山である。

調査の結果、第1トレンチ・第2トレンチとも第3層より土坑を確認した。しかし、土坑以外は確認できなかった。

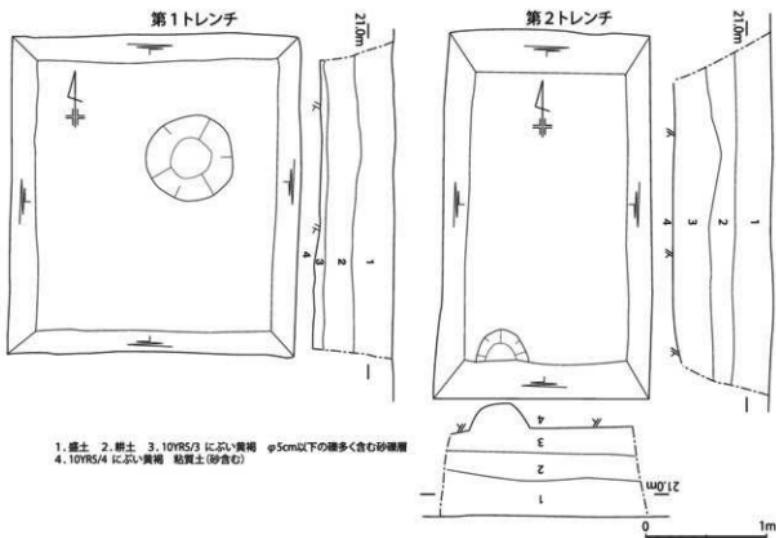
第2層・土坑より弥生土器・土師器・須恵器等が出土した。1～3は第2トレンチの第2層より出土した弥生土器で、1・2は外面にタタ



第46図 出土遺物実測図



第45図 トレンチ位置図



第47図 トレンチ平・断面図

キが施され、1の内面はナデ、2の内面はヨコナデである。4は第1トレンチの土坑より出土した土師器甕である。



1) 神田北遺跡第17次調査 トレンチ全景（南東から）



2) 神田北遺跡第18次調査 トレンチ全景（南東から）



1) 禅城寺遺跡第11次調査 第1トレンチ全景（北西から）



2) 禅城寺遺跡第11次調査 第2トレンチ全景（北西から）



1) 禅城寺遺跡第12次調査 トレンチ全景（南東から）



2) 禅城寺遺跡第13次調査 トレンチ全景（南東から）



1) 池田城跡第64次調査 第1トレンチ全景（南東から）



1) 池田城跡第64次調査 第2トレンチ全景（北東から）



1) 池田城跡第65次調査 トレンチ全景（北西から）



2) 池田城跡第66次調査 第1 トレンチ全景（南東から）



1) 池田城跡第66次調査 第2トレンチ全景（南東から）



2) 池田城跡第66次調査 第3トレンチ全景（北から）



1) 池田城跡第67次調査 トレンチ全景（南西から）



2) 宮の前遺跡第52次調査 トレンチ全景（北東から）



1) 宮の前遺跡第53次調査 トレンチ全景（東から）



2) 宮の前遺跡第53次調査 土坑（北西から）



1) 宮の前遺跡第54次調査 トレンチ全景（南西から）



2) 宮の前遺跡第55次調査 トレンチ全景（南西から）



1) 豊島南遺跡第9次調査 第1トレンチ全景（北東から）

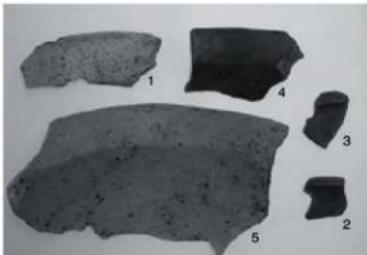
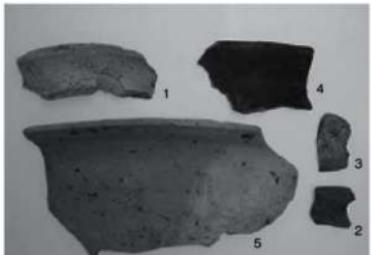


2) 豊島南遺跡第9次調査 第2トレンチ全景（東から）



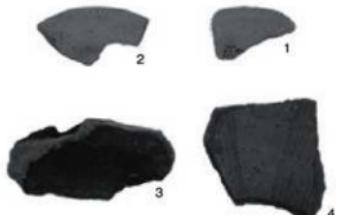
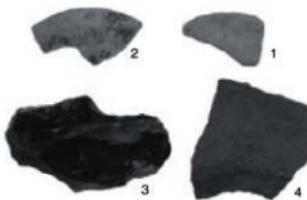
1) 檀城寺遺跡第11次調査 出土遺物 表

2) 檀城寺遺跡第11次調査 出土遺物 裏



3) 檀城寺遺跡第13次調査 出土遺物 表

4) 檀城寺遺跡第13次調査 出土遺物 裏

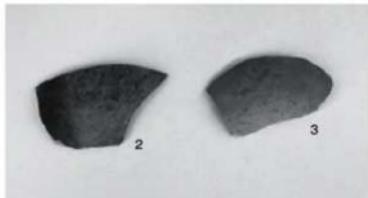


5) 池田城跡第64次調査 出土遺物 表

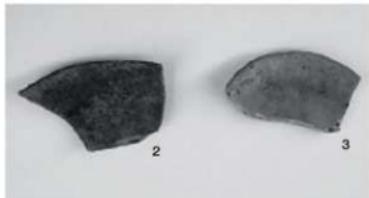
6) 池田城跡第64次調査 出土遺物 裏



7) 池田城跡第67次調査 出土遺物 1



1) 池田城跡第67次調査 出土遺物2 表



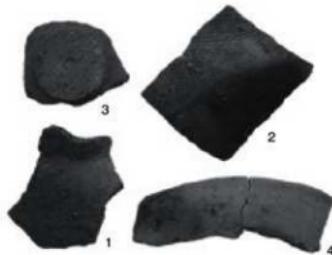
2) 池田城跡第67次調査 出土遺物2 裏



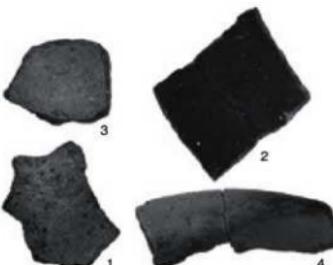
3) 宮の前遺跡調査 出土遺物 表



4) 宮の前遺跡調査 出土遺物 裏



5) 豊島南遺跡第9次調査 出土遺物 表



6) 豊島南遺跡第9次調査 出土遺物 裏

報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはつくちょうさかいほう					
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報					
副書名	池田市文化財調査報告第37集					
卷次						
シリーズ名	池田市文化財調査報告					
シリーズ番号	37					
編著者名	中西正和					
編集機関	池田市教育委員会					
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 072-752-1111					
発行年月日	2011年3月31日					
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度	東経 度	調査期間	調査面積 m ²
神田北遺跡第17次調査	神田1-1251-5	272043	34°48'分 31.825分55秒	135度 00'25分55秒	100326	2m ²
神田北遺跡第18次調査	八王寺2-1373-5	272043	34°48'分 33.926分05秒	135度 00'26分05秒	101001	2m ²
神城寺遺跡第11次調査	宇保町236-3の一部	272043	34°48'分 49.826分01秒	135度 00'26分51秒	100517～ 100518	4m ²
押城寺遺跡第12次調査	八王寺1-248-8	272043	34°48'分 36.926分04秒	135度 00'26分04秒	100730	6m ²
押城寺遺跡第13次調査	宇保町3-22	272043	34°48'分 51.825分57秒	135度 00'25分57秒	110121～ 110124	20m ²
池田城跡第64次調査	上池田1-396-2	272043	34°49'分 12.826分00秒	135度 00'26分00秒	100520～ 100521	16m ²
池田城跡第65次調査	上池田1638-4	272043	34°49'分 16.926分02秒	135度 00'26分02秒	100804	6m ²
池田城跡第66次調査	建石町2021-2	272043	34°49'分 11.925分59秒	135度 00'25分59秒	100909	15m ²
池田城跡第67次調査	城山町3-24(2536)	272043	34°49'分 38.925分49秒	135度 00'25分49秒	110207	2m ²
宮の前遺跡第52次調査	石橋4-309-14の一部	272043	34°47'分 59.826分53秒	135度 00'27分53秒	100702	4m ²
宮の前遺跡第53次調査	石橋4-129-45	272043	34°47'分 50.926分48秒	135度 00'27分48秒	100830	25m ²
宮の前遺跡第54次調査	石橋4-87-2-127-5-6	272043	34°47'分 51.926分46秒	135度 00'27分46秒	100914	6m ²
宮の前遺跡第55次調査	石橋4-154-4	272043	34°47'分 53.926分58秒	135度 00'27分58秒	101215	4m ²
豊島南遺跡第9次調査	豊島南1-347-2	272043	34°47'分 44.926分17秒	135度 00'27分17秒	101013	20m ²
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
神田北第17次調査	集落跡	旧石器から中世	—	—		
神田北第18次調査	集落跡	旧石器から中世	—	—		
押城寺第11次調査	集落跡	縄文から中世	—	須恵器・土師器・青磁等		
押城寺第12次調査	集落跡	縄文から中世	—	—		
押城寺第13次調査	集落跡	縄文から中世	柱	跡	須恵器・土師器等	
池田城跡第64次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世	柱	穴	土師器・土師器皿等	
池田城跡第65次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	—	土師器・土師器皿等	
池田城跡第66次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世	水	路	土師器・土師器皿等	
池田城跡第67次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	—	土師器・土師器皿等	
宮の前遺跡第52次調査	古墳・集落跡	旧石器から中世	土	坑	土師器・瓦器陶等	
宮の前遺跡第53次調査	古墳・集落跡	旧石器から中世	落	ち込み	生土器・土師器・土師器皿等	
宮の前遺跡第54次調査	古墳・集落跡	旧石器から中世	柱	穴	生土器・須恵器・瓦器陶等	
宮の前遺跡第55次調査	古墳・集落跡	旧石器から中世	—	—		
豊島南遺跡第9次調査	古墳・集落跡	縄文から中世	土	坑	弥生土器・須恵器	

要約

池田市文化財調査報告第37集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報
2010年度
2011年3月
発行 池田市教育委員会
池田市城南1丁目1番1号
編集生涯学習推進課
印刷 セイコープロセス株式会社